



炊き出し、夜間訓練、
煙体験など
など

昼夜を通して 避難生活を体験

この訓練では、災害の発生によって自宅で生活ができなくなったと仮定して、学校や公園での避難生活を疑似体験しました。応募した市民20人と、市川災害ボランティアネットワークの世話人、消防署員、社会福祉協議会や市の職員などが、災害時の一時避難場所や救援拠点となる大洲防災公園に集合。みんなで力を合わせて2日間を過ごし、日中や夜間に避難生活をする場合の問題点も話し合いました。



広報いちかわなどで参加者を募集し、8月23日(土)・24日(日)に大洲防災公園で行われた「災害時を想定した避難生活体験訓練」取材しました。災害発生時やその後の避難生活に役立つ知識が身に付けられ、煙の怖さも体験できて、得るものが多い訓練でした。今回は、その様子をお知らせします。

特集 災害時を想定した避難生活体験訓練 追跡レポート

いざ!という時は、 経験がものをいう



何も見えないって
怖いよー!



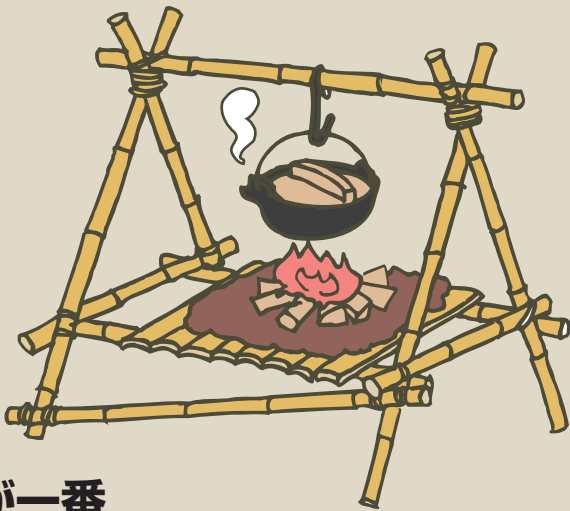
かまど作り

炊き出しにも工夫が

竹をヒモで組んで作る立ちかまど。じかに火が焚けない場所でも使えて、雨が降れば広い室内にも移せるので便利です。普段から竹やぶの場所を知っておけば、いざという時に役立ちそう。



▲完成した立ちかまどで、じゃがいもを焼きました



が一番

いい日でしたが、温かい食
ってくれました。メニューは
「米」。災害時に贅沢はで



▲「意外においしい」と評判のすいとん

◀投光機の明かりを頼りに夕飯作り

ベンチがかまどに変身



▲「ボクにもできるぞ!」とベンチの木製部分を取り外します

普段はベンチとして、災害時には木製の部分を取り外してかまどに。木製部分は薪として活用できます。



こんなところがトイレに

地下が空洞になっていて、その上に囲いを設置するとトイレに。これでみんなもひと安心。

大洲防災公園には、災害時に役立つ道具や設備があります。今回は、これらの設備も確認しました。



▲完成した「トイレ」

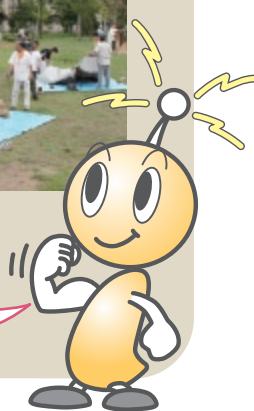
テント設営は 力を合わせて

最近のテントは比較的簡単に設営できますが、
●出入り口を風下に向ける
●固定用のくいは地面に対して45度で
など、経験者からより安全性を高めるアドバイスがありました。



▲まずは寝る場所を確保

みんなも
覚えておいてね



参加者の声

●参加した感想は?

(男性)「テントや立ちかまどなどを実際に作ってみると、思っていたより手間取ったので、こういうのを経験しておいた方がいいと思う」
(男性)「災害時には、温かい物が食べられるのが何よりですね」

●参加の理由は?

(女性)「近くに住んでいて、一時避難場所もここなので、経験しておこうと思って」

訓練に参加して分かったこと

●避難する際の持ち物は

夜間訓練の後には、実際に避難することを想定して持ってきた物について、みんなで意見交換しました。

【主な意見】

- ▶避難する時には懐中電灯は必要。最近は発電機能付きもあって便利。
- ▶ヘッドライトは両手が使えてとても便利。
- ▶水は大切で、1人1日3ℓが必要といわれているが、実際に非常用持ち出し袋に入れるには重すぎる。成人男性では15kgが目安。
- ▶災害時に食べられるやわらかい物や簡単に調理できるレトルトの物も、最近では保存できる物があるので、袋に入れておくと良い。

●いろいろ課題が…

- ▶一晩のテント生活でも体が疲れた。地べたに直接寝ていたのでは、何かマットのような物が必要。
- ▶明るさが大事だから懐中電灯やランタンは必要。また、夜間に今回のような作業をすることもあり得るので、投光機は非常に役立つ。
- ▶今回のような雨が長く続いた場合の対応が必要。
- ▶こういう体験ができる機会をもっと増やして欲しい。
- ▶避難所内の安全を確保するための夜間パトロールなども必要。



訓練メニュー

1日目	テント・かまど設営、炊き出し、応急救護、ロープワーク
2日目	炊き出し、反省会、撤収

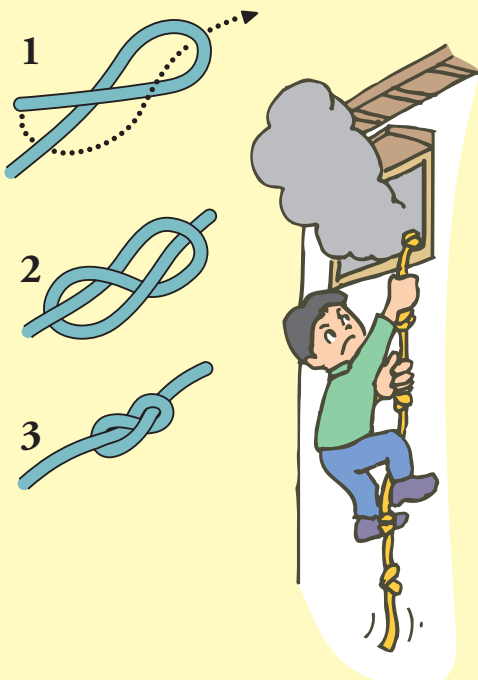
煙の中では何も見えない!

煙体験では、「何も見えないから手探りで逃げるしかないね」との声も。火事に遭った時は、煙を吸わないことが大切です。できればぬれた布で口を覆って、できるだけ身を低くして避難しましょう。

▶無毒の煙を使った煙体験

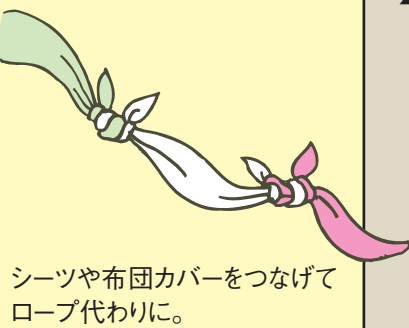
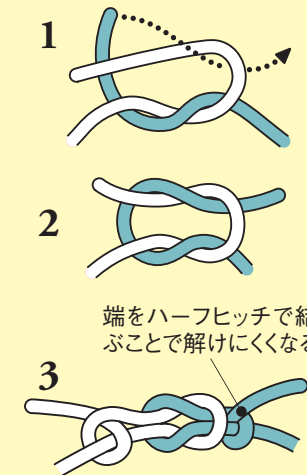


八の字結び



一重結びよりコブが大きくなるので、2階から地上に避難するためのロープの手や足の滑り止めとして。

本結び+ハーフヒッチ

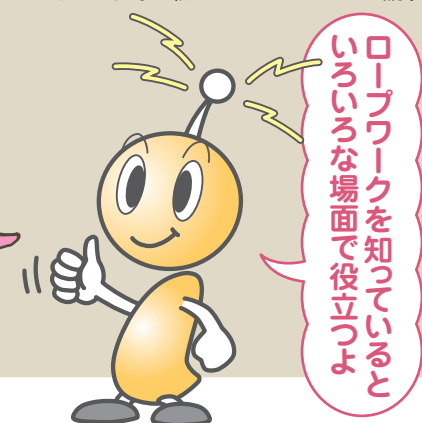


救護方法もしっかり習得

夜間訓練では、セーフティリーダーによるロープワーク、三角きんを使った応急救護などの講義がありました。自分や家族の身を守る術を身に付けようと、受講者は真剣。



▲いざという時に役立つロープワークの講義



▲時間が掛かった立ちかまど



温かい食事

小雨が降って肌寒。体がボカボカに。「すいとん」と「アルファ」をいただきます。



取材後記

今回の参加者は、日頃から災害援助活動やボランティア活動に関心のある方が多く、実際の避難生活などを「知ってもらいたい」「覚えておきたい」という意欲を強く感じました。また、この訓練で、災害時の心構えはもちろん、具体的な対処法を身に付けておくことや、物品の備えも大切だと教わりました。身をもって体験したことは、いざという時に必ず役に立つはずです。皆さんにも、自治会で行う防災訓練など、このような体験訓練への参加を、ぜひお勧めします。

市川災害ボランティアネットワークとは

市と社会福祉協議会で開催した「ボランティア講座」の受講者が、自主的に結成した団体です。大地震などの災害が発生した時、全国から駆けつけてくれるボランティアを受け入れ、被災地や避難場所へ派遣する災害ボランティアセンターが設けられるため、その活動をサポートします。通常は、毎月1回、災害に関する講座を受け、訓練をしています。

会員募集中!

問い合わせ ☎326-1284 ボランティア・NPO担当

社会福祉協議会では、災害ボランティアセンターをいち早く立ち上げる訓練と、講演会などを予定しています。

●開催予定日
11月29日(土)

●会場
社会福祉協議会
勤労福祉センター

※参加者募集の詳細は、「広報いちかわ」などでお知らせする予定です。